

飛騨高山観光特集

官民一体で観光魅力アピール

特別対談

高山市長

田中 明氏

飛騨・高山観光
コンベンション
協会会長
堀 泰則氏



宿泊者は外国人が4割 市民の意識の高さが魅力 宿泊税使途は条例で

岐阜県高山市がにぎわっている。2025年の観光入込客数は過去最高を記録し、国内外から多くの観光客が訪れている。高山市の田中明市長と飛騨・高山観光コンベンション協会の堀泰則会長（ひだホテルプラザ会長）の対談を通して、高山の現状や今後の展望を探った。聞き手は編集委員の内井高弘。（2月下旬、市長室で）

2025年の観光入込客数は

田中 前年比8.4%増の47万5千人。37万人ほど増え、過去最高となりました。宿泊客数は同3.3%増の23万2千人。うち外国人は同27.1%増の9万78千人でした。宿泊者のうち外国人が4割強を占めており、官民が一緒に観光活動をしてきた成果が表れています。

堀 地域別にみると、台湾が最も多く約12万人、次いで中国の約9万人、米国約6万人、スペイン約5万人、イギリス約4万人と続き、欧米の方が増えているのが特徴です。

JNTOによると、1月の訪日客は4年ぶりに前年割れとなりました。中国が約6割減となったのが響いたようです。高山でも影響は出ていますか。

堀 中国を対象としたプロモーションはほとんどしていません。後減ったとしてもインバウンド市場において大きな影響はないと認識しています。欧米客が高山に注目し、増えていることを評価しており、情報発信してきた成果だと受け止めています。欧米に加え、これからは韓国も重点市場として、誘客活動を展開していきます。25年は2万4千人ほどでしたが、開拓の余地は十分あるとみています。

改めて高山の魅力をお話したい。高山祭や古い町並など、豊かな観光資源に恵まれていることとはもちろんですが、何と比べて

も人に尽きます。旅行者を受け入れる中で自分たちも喜びを感じ、一杯の酒を飲むなど、高山の風土や伝統文化を含め、生活に息づくものを次の時代に伝えていくという市民一人一人の意識の高さが魅力です。先般、ブックキング・ドットコム「世界で最も居心地の良い都市10選」に選ばれたことがそれを表していると思います。

堀 協会が策定した「飛騨高山観光ビジョン2025〜2035」の2029年には、テーマとして「かかげの宝物」とうたっており、①多様な主体の参加を促し、観光の強みを取り入れた強靱な地域づくり②観光を活用した地域資源の保護・活用や人材育成、郷土愛の醸成による活力ある地域づくりを指すことを基本方針に掲げています。市長が指摘されたそのことが高山の文化を醸成させていることは間違いなく、受賞はわれわれの方向性が間違っていないことを裏付けており、大変うれしですね。

外国人旅行者が増えていると、観光地への一極集中、いわゆるオーバーツーリズムの問題が出てきます。

堀 高山においてオーバーツーリズムは発生していないと思っています。私はそこに住んでいる人たちが①不満②不平③不公平の三つを感じていることがオーバーツーリズムだと捉えており、高山においてはそこまではいっていないと思っています。強い受け入れ、おもてなし文化がまず優先されるので、人がいないことはむしろ立

ちません外国人の活用を含めて、対応するしかないと思っています。田中 市は「第九次総合計画」（25〜34年度）の中に「多文化共生」という項目を入れ、「異なる文化や慣習を認め、共に生きる社会の構築」を掲げています。外国人を雇用する際、補助金を出してバックアップする制度もありま

るのかなとただ、混雑が続く住民の方が不便を被るようであれば、幅広く周遊していただけるような仕組み作りが必要です。協会ではすでに取り組んでいます。田中 他の国内主要観光地と比べて、高山は観光客の来訪手段が限られており、輸送力も大きくはないことから、局所的な混雑はあるものの、会長がおっしゃる通りオーバーツーリズムではないという認識です。世間では外国人が来ることの弊害も指摘されていますが、高山には数十年にわたる多くの外国人観光客を迎え入れてきた歴史があります。旅行者には、私

たちの日常に対して配慮してもらいたい、私たちも温かい気持ちでお迎えしたい。この思いから「With Respect」（敬意を込めて）を合言葉に来訪者へのお願いを伝えています。

堀 観光業界は人手不足に悩んでいますが、高山はいかがですか。

堀 間違いなく人手不足で、今後も続くのではないかと懸念しています。宿泊業界はDX（デジタルトランスフォーメーション）化が難しい業種です。人の心対面で満足していただくこと、おもてなし文化がまず優先されるので、人がいないことはむしろ立



「世界で最も居心地の良い都市」
26年、日本で唯一10選入りの

大手宿泊予約サイトのブックキング・ドットコムは2月18日、2026年の「世界で最も居心地の良い都市」10選を発表。日本からは唯一、高山市が選ばれた。過去14回の中で日本の都市が選ばれているのは24年の山梨県富士河口湖町以来2例目となる。

10選は、サイト利用者の口コミなどを基に毎年発表。高山市は口コミで高い評価を得た宿泊施設が多いことや歴史的新建物、観光客を受け入れる環境が整っていることが評価された。

市の魅力について主に次のように述べている。

「江戸時代の風情が今も色濃く息づく町。三町筋地区は、狭い通り沿いに美しく保存された木造の商家や伝統的な酒蔵、工芸品店が立ち並び、まるで時代をさかのぼったかのような感覚を味わえる。高川朝市は活気あふれる、ガイド付きの酒蔵ツアーに参加すれば、日本酒造りの奥深さに触れることができる。周辺には飛騨民俗村やユネスコ世界遺産に登録されている白川郷があり、何世紀にもわたって受け継がれてきた農村の建築様式を間近に見ることができる。こうした体験が旅に一層の興行きを与えてくれる。ミュージアムを立って焼き

ました。商工会議所や商工会、まちづくり協議会、NPO法人など地域のプレイヤーとともに連携を深め、独自の個性ある地域資源の掘り起こしや誘客に一体感をもって取り組みます。また、他の団体と協力してDMCを設立する方針です。できれば26年度からスタートさせ、観光商品開発や実行部隊として役割を果たしてまいります。高山の特徴の一つに客室の多さが挙げられます。

堀 18年前からホテルの建設ラッシュが始まり、25年以降の確実な客室の増加もあり、カジュアルからラグジュアリーまで受け入れが可能です。選択肢の多さは弊を抜いています。

田中 人口8万人強の都市でルーム数が5千室というのは非常に珍しく、県都の岐阜市にもありません。せん、高山市と匹敵する規模です。ホテル側もビジネスなので、採算が取れない場合は退出しませんが、一定数の方が滞在していたら地域にお金が落ちるので、市にとってもメリットがあります。

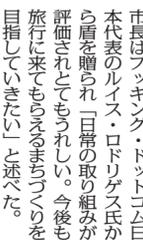
堀 客室の多さに加え、今後はコンベンション機能の強化も期待され、MICEを受け入れる体制は十分整っており、誘致活動をさらに強力に展開する方針です。

田中 市は今年、市制施行90周年を迎えます。何か記念行事などは考えていますか。

田中 高山に暮らす喜や郷土への誇り、愛着を深めていくことが目的として、市民が楽しめるような取り組みを実施します。次の100周年に向けて、大切な節目の年であると考えています。

2月18日にはひだホテルプラザで表彰式が行われた。田中明市長や飛騨・高山観光コンベンション協会の堀泰則会長が出席。田中市長はブックキング・ドットコム日本代表のルイス・ロドリゲス氏から盾を贈られ「日常の取り組みが評価されたとうれし。今後も旅行に来てもらえたらうれしい。今後は目指していきたい」と述べた。

また、堀会長は「市民や宿泊施設、観光関連事業者の皆さんに受賞したことをお伝えし、これからもおもてなしをしっかりと行っていくという機会にしたい」と気を引き締めた。



2月18日、ひだホテルプラザで行われた表彰式に出席した関係者（後方中央がブックキング・ドットコムのロドリゲス氏）